

Newsletter No. 10

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第 27 回学術大会案内

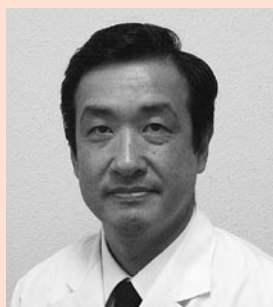
日時：2010 年 6 月 18 日（金）、19 日（土）

場所：岡山大学創立 50 周年記念館

第 27 回大会長 挨拶

第 27 回日本顎顔面補綴学会学術大会

大会長 皆木 省吾



第 27 回日本顎顔面補綴学会学術大会を岡山大学大学院医歯薬学総合研究科咬合・有床義歯補綴学分野でお世話させて頂くことになりました。伝統ある本学会が岡山大学で開催されることは初めてのことであり、教室員共々大変光栄に存じます。

特別講演は、本学大学院自然科学研究科教授で、アクチュエータ研究センター・センター長としても活躍されておられる鈴森康一先生にお願いし「生体医工学を加速するアクチュエータ工学（仮題）」と題する講演をしていただく予定です。

興味深いご講演を拝聴できることと思います。

また、今回の教育研修会は、「顎顔面補綴治療の変遷 舌・口腔底腫瘍」というテーマで講演が開催されることになっており、非常に有意義な研修会になるものと期待されます。

会員懇親会は前回同様、学術大会初日の夜に設定させて頂きました。瀬戸内の美味しい魚とお酒を味わいながら、岡山の夜の一時を過ごして頂きたいと思います。

教室員一同、学会開催に向けて鋭意準備を進めております。至らない点多々あるかと思いますが、当日の運営も精一杯務めていく所存です。

多くの会員の皆様のご参加と活発な質疑応答で充実した学会になりますよう祈念し、ご挨拶とさせて頂きます。



岡山大学 アクチュエータ研究センター
ホームページより引用

<http://www.actuator-center.sys.okayama-u.ac.jp/>

第26回学術大会報告

平成21年6月26日(金)、27日(土)、じばさん三重(三重県北勢地域地場産業振興センター)において、愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座・下郷和雄総会長のもと、第26回日本顎顔面補綴学会総会および学術大会が開催されました。学術大会前日の25日午後に理事会および各委員会がおこなわれ、26日には坂倉先生の特別講演と一般講演22題の発表が行われました。さらに27日午前中には学術委員会主催の第14回教育研修会、午後からは一般講演13題の発表が行われ、盛会のうちに幕を閉じました。



一般講演の風景



四日市都ホテルでの会員懇親会

特別講演を聴講して

鼻・副鼻腔の構造・機能と病態

坂倉康夫先生

三重大学名誉教授



ご講演は、まず鼻・副鼻腔の構造についてのお話から始まりました。鼻腔の内部は鼻中隔によって左右に分けられ、側壁から上・中・下鼻甲介が突出しており、その周辺に上顎洞などの副鼻腔が存在している。またこれらの表面は嗅上皮と呼吸上皮により被覆されている。嗅上皮には文字通り嗅覚受容器が存在し、嗅刺激を神経系に伝達している。嗅上皮は1円硬貨ほどの大きさのみで、その他の鼻腔と副鼻腔は呼吸上皮で被覆されている。呼吸上皮は多列繊毛円柱上皮で繊毛上皮中に杯細胞がある。粘膜下には分泌線があり、そこから分泌された粘液は繊毛運動により粘液の移動が起こる・・・このような基本的知識を整理していただきましたが、阪神タイガースのマークを呼吸上皮と同じ構造を持つカエルの口蓋粘膜に置くと、阪神タイガースが上昇気流に乗って上昇していくようにマークが粘膜上を動いていく様子は一番印象に残りました。この運動が、呼吸上皮上の粘液層に吸着した吸気中のさまざまな異物を、気道から食道へ排除することに役立っていることがよく理解できました。

構造のほかには鼻腔・副鼻腔の機能、病態についてもご講演いただきました。顎顔面補綴治療を担当する歯科医師として、顎欠損側から鼻腔を眺める機会が多いのですが、その詳しい構造、機能、そして病態について把握しているかと言われれば、(口腔外科の専門医でないと)自信がないというのが正直なところです。その意味でも、今回の特別講演は大変貴重なものであったと思います。

(会員 藤原茂弘)

第14回教育研修会を聴講して

今回の研修会のテーマは「顎顔面補綴治療の変遷—下顎腫瘍—」と題し、座長に大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座の小野高裕先生、講師には愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座の下郷和雄先生、九州歯科大学歯学部歯学科口腔機能再建学講座顎口腔欠損再構築学分野の鱒見進一先生、九州歯科大学口腔顎顔面外科学講座形態機能再建学分野の高橋 哲先生、徳島大学病院・歯科の久保吉廣先生を迎えて行われました。

まず、研修会の開始に先立って座長の小野先生より本研修会の内容についての説明がありました。下顎腫瘍に対する顎補綴治療のとらえ方の変遷を『顎顔面補綴の臨床』（2006年）から、『下顎の顎補綴』（歯科ジャーナル、1993年）、『顎顔面補綴』（The Dental、1984年）と本学会の節目に出版されてきた書籍の内容を追いつながりながら遡り、基本的な補綴手技はすでに『顎顔面損傷の外科』（中村平蔵ら、1957年）に列挙されていることが紹介されました。そして、今回の教育研修会では、外科、補綴（技工）、患者のそれぞれの側から見た問題点を提示し、本研修会を現状の整理だけでなく、学会としてとりくむべき課題を考える機会にしたいと述べられました。



I. 外科的形態・機能回復

下郷和雄先生



下郷先生は、ご専門の顎顔面外科の立場から、腫瘍、外傷などで欠損が生じた際の下顎再建のさまざまな手法とその効果・限界について解説されました。

まず、下顎区域切除時の下顎再建で考えるべきことは、①下顎弓の連続性（気道確保・嚥下障害）②顔の外輪郭、③負担の分散、④機能回復（咬合考慮し補綴装置の装着まで考慮）であると述べられました。次に、再建に用いられる手法として、架橋材（金属プレート）、遊離骨移植術、血管柄付き骨移植術を挙げられ、それぞれの注意点、利点と欠点を詳細に解説されました。先生が頭頸部外科との長く親密な連携の中で培われた手術技法に加えて、「咀嚼の効果器としての歯牙」をインプラントや顎義歯を用いて再建し、より高度な機能回復を目指すという「二段構えの機能補填」の考え方とともに、さまざまな症例を供覧していただきました。

最後にがん医療チームの一員として考えることが大切で、治療の選択はすべて相対的なもので絶対的というものはないと述べられました。ディスカッションにおいてもこのことは強調されましたが、下顎領域の腫瘍切除と再建は、腫瘍の進行度や患者の全身的な条件によって理想的な手法が選択できる訳ではないということは、補綴専門医もよく認識しておかねばならないと感じました。常に過酷な条件と直面しながら、よりよい機能回復を求める顎顔面外科の厳しさに感銘を覚える講演でした。

Ⅱ. 補綴的形態・機能回復

—コンベンショナルな顎補綴治療—

鱒見進一先生



鱒見先生は、インプラントを用いない下顎骨欠損症例に対する補綴的対処法について、先生の長い経験の中で苦心されながら工夫改良されてきた経緯を中心に講演さ

れました。

現在のように外科サイドと補綴サイドの間で顎顔面補綴に対するコンセンサスが得られていなかった時代は、非常に難症例が多く、補綴的な工夫を凝らしてどうにか顎義歯を装着していたとのことでした。そのような難症例の治療経験から、下顎骨欠損症例の難易度においては、「下顎の連続性」、「下顎の変位」、「開口障害」、「残存歯の有無」、「周囲軟組織の状態」がポイントとなることを整理され、またそれぞれに対する対処法について詳しく解説していただきました。特に、支持組織が不良な場合に用いられる機能印象やフランジテクニック、下顎偏位を伴う症例で咬合の安定を図るためのパラタルランプなど、私たちが日常苦心する状況に対する対処法を供覧していただいたいへん参考になりました。

また、現在では治療手技の発展により、「再建下顎骨の形状」、「歯列弓形態幅径と上顎との対向関係」、「インプラント埋入位置」、「皮弁のボリュームと被圧縮性」といった新たな問題点が提起されることとなったと述べられました。これらのことについてはこれから十分な議論がなされ、答えが導かれていくべきであると話されましたが、下顎領域においてはコンベンショナルな顎補綴のコンセプトと手技をよく理解することがこれからも重要であることをよく認識させていただいたご講演でした。

Ⅲ. 補綴的形態・機能回復

—インプラント顎補綴治療—

高橋 哲先生



高橋先生には、下顎腫瘍切除後の顎補綴治療におけるインプラント治療についてご講演いただきました。まず、総論的に、下顎顎欠損は小規模なもののから軟組織に及ぶ大規

模なものまで欠損の様式が幅広いこと、腫瘍発生部位と良性か悪性かによって切除範囲が異なること、それに合わせた再建方法が必要となり、形態や咀嚼、嚥下、発音などの機能再建を含めた補綴的回復が必要になってくること、この点でインプラントによる再建の有用性が見出されることを述べられました。

現在のインプラント治療のコンセプトはトップダウントリートメントが主流で、これを下顎の顎補綴に適用した場合、インプラント顎補綴のため下顎再建ということが必要となってきます。しかし、比較的小規模な欠損には補綴主導型のインプラント治療が可能であるにしても、広範囲の欠損には理想的な部位にインプラントを埋入することは困難です。また、骨性再建の問題点はとれる量が決まっているということであり、また採取する部位によって厚み、高さ、長さなどの限界も決まってきます。先生は、広範囲の欠損にはまず骨の連続性を回復させ、その後咬合再建を踏まえた骨性再建を行い、また上部構造により補正を図り、場合によってはオーバーデンチャーを適応することも方法の一つであることを解説されました。しかし、軟組織にも切除範囲が及ぶ場合は、インプラントによる機能回復にも限界があるということにも言及されました。先進医療としての「インプラント義歯」を理解するうえでもたいへん有益なご講演でした。

IV. 補綴下顎欠損症例に対する機能評価

久保吉廣先生



久保先生からは、複雑な機能障害を呈する下顎欠損症例に対する機能評価法について解説していただきました。下顎欠損により障害される機能としては、咀嚼機能、発音

機能、嚥下機能、さらに審美性がありますが、その中の咀嚼機能について特に焦点をあてた内容でした。

咀嚼機能回復を評価する検査において、患者にも術者にも、その程度が分かる評価法があるのかどうか、過去 10 年分の論文により考察され、摂食可能食品アンケート調査において、独自の機能判定表をご提案されました。また、先生が下顎切除症例への応用に取り組まれてきた 6 自由度顎運動測定器を用いた顎機能評価法についても、くわしく解説されました。

久保先生のご講演を受けて、主観的ならびに客観的機能評価の大切さ、またその評価法を統一する必要性について、活発な討論が行われました。たしかに、評価法が施設によって異なる現状では、まとまった症例数が集まりにくい顎補綴治療のエビデンスとなるような研究データを得ることが困難であり、この分野の発展のために今後学会主導の取り組みが期待されると思われました。

(会員 横山須美子)



関連学会報告ならびに予告

第 15 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 (JSDR) 学術大会

2009 年 8 月 28 日・29 日の両日、名古屋国際会議場において藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科(馬場 尊教授)の主管で行われた第 15 回 JSDR は、二日間で 5200 名という多くの参加者があり、当日は 10 の口演会場と 6 つのポスター会場で多くの企画とともに、564 題の一般演題が発表され、改めて摂食・嚥下リハビリテーションへの関心の高さがうかがえた。

顎顔面補綴に関わる口腔中咽頭癌症例を扱った演題も多数見られたが、今回特に興味深かったのは、指定テーマ講演の一つとして行われた「摂食・嚥下障害に対する装具療法」であった。このセッションでは、舌接触補助床(PAP)と軟口蓋挙上装置(PLP)の効果について、「摂食・嚥下障害と補綴・補助床」(北海道大・鄭 漢忠)、「下顎に装着する嚥下補助装置」(大阪大・野原幹司)、「咽頭期嚥下障害に対する舌接触補助床の適応について」(防衛医大・中島純子)、「他職種連携下での口腔内装置作製」(聖隷三方原病院・大野友久)、「脳性麻痺患者への応用」(昭和大・弘中祥司)の 5 題の講演が行われた。

特に PAP については、脳血管障害、脳性麻痺症例における適用について、下顎装着型の装置について、咽頭期への影響など、非常に興味深い内容であった。PAP に代表される嚥下補助装置は、今後ますます臨床現場で活用され、摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科的アプローチの一つとして貢献していくものと期待されるが、一方で診断や治療に関する情報の不足や、保険医療への収載などの課題も抱えている。

なお、PAP については、日本補綴歯科学会と日本老年歯科医学会によるガイドライン(案)が作成され、「老年歯科医学」24 巻 2 号に掲載されているのでぜひ参照されたい。

(広報委員 小野高裕)

第 11 回日本口腔顎顔面技工研究会

第 11 回日本顎顔面技工研究会が、平成 21 年 11 月 7 日（土）に仙台赤十字病院医療技術部 渡邊 健先生を大会長として仙台市情報・産業プラザ AER で開催された。

今回は、「FOCUS ～それぞれの焦点～」という大会テーマで、特別講演 2 題、宿題講演 1 演題、特別企画 4 演題、一般口演 9 演題、計 16 演題で、参加者は 114 名で盛会であった。

特別講演Ⅰでは、「顎口腔再建の現状」というテーマで、本学会会員である東北大学病院附属歯科医療センターの小山重人先生が、東北大学病院・顎口腔再建治療部における顎顔面補綴治療の現状について語られた。

特別講演Ⅱでは、「歯科技工士と慢性疾患」というテーマで、仙台赤十字病院第一呼吸器科の三木 誠先生が、歯科技工士は労働安全衛生規則第 45 条で定められている特定業務従事者に当たるため定期健康診断における胸部 X 線検査の重要性を語られた。

宿題講演では、「科学論文・はじめの一歩」というテーマで、長崎大学中央技工室の永野清司先生が、口演またはポスターで発表したものを、論文にする場合の書き方について語られた。

特別企画のメインテーマは、「生体の一部として機能させるエピテーゼへの取り組み」というテーマで、企画Ⅰでは、「メークとエピテーゼ」で、UNIX-1 の前田ヒロ皓先生が、エピテーゼのマージン処理にメークの応用について語られた。

企画Ⅱでは 3 人が講演した。1. 「エピテーゼ製作の工夫」で、愛知医科大学病院歯科口腔外科技工部の森下裕司先生が、技工学校などでエピテーゼ教育を行う場合の材料の入手方法や安価に収める方法について語られた。2. 「エピテーゼの変色と耐久性」で、佐賀大学医学部歯科口腔外科の山口能正（著者）が長期使用したエピテーゼの変色の原因に対する対処法と現在の製法法について語った。3. 「北海道大学における耳介エピテーゼの変遷」で、北海道大学病院生体技工部の

西川圭吾先生が、北海道大学での耳介エピテーゼ製作と工夫の変遷について語られた。

一般演題は、ノンクラスプデンチャー、チーム医療、Hotz plate、エピテーゼ、顎運動、技工学校の現状、顎義歯についての口演であった。

この学術大会で各施設の技工士が、工夫と苦労して技工に取り組んでいることは、ひしひしと伝わってきた。また技工学校の初任給が、高卒の初任給より低い現状もあることなど、衝撃的な話もあった。

技工士の 25 歳までの離職率が 80%、30 歳までの離職率が 75%といわれる現状を見ると、今後、日本の歯科医療の未来が心配される。

今回は北海道札幌市で北海道大学病院生体技工部の大澤 孝先生を大会長として開催される予定である。

（広報委員 山口能正）



第 9 回国際顎顔面リハビリテーション学会 (ISMR)

来年の 5 月 19 日から 22 日にイタリア、セストリ・レヴァンテで開催される第 9 回国際顎顔面リハビリテーション学会（ISMR）の案内が、会員の皆様にも届いていることと思います。二年に一度開かれるこの学会は前回タイのバンコクで開かれ、日本からも多くの会員が参加され大会を盛り上げました。今回のテーマは「革新的医療のための集学的な取り組み—未来への扉—（Interdisciplinary Integration for Innovation—The

Gateway to the Future—)と題され、複雑で繊細な顎顔面領域の再建とリハビリテーションの為に、各分野での臨床と研究の成果を踏まえた、新たな総合的な分野の構築を目指しています。この学会は地中海沿岸の高級リゾート地のリビエラで開催されるとあって、本場のイタリア料理を楽しみながら世界各国の顎顔面補綴診療にかかわる関係者と交流できるのを楽しみにしている方も多いことと思います。国際交流委員会では ISMR との団体契約に基づいて、我々の学会から推薦する演者を人選中です。一般口演演題の締め切りは2月1日ですが、ポスター演題は3月1日締め切りですのでまだまだ時間にゆとりがあります。日本の顎顔面補綴診療の成果を世界に紹介すべく、大勢で学会に参加しましょう。詳しくは学会ホームページ (www.ismr-org.com) をご覧ください。

(国際渉外委員 尾澤昌悟)



関連学会の案内

- 第28回日本口腔腫瘍学会総会
開催日：1月28日(木)～29日(金)
会場：学術総合センター
大会長：小村 健
問い合わせ先：東京医科歯科大学口腔機能再建学
顎口腔外科
TEL：03-5803-5506
- 第33回日本嚥下医学会総会ならびに学術集会
開催日：2月5日(金)～6日(土)
会場：久留米大学旭町キャンパス内筑水会館
大会長：中島 格
TEL：0942-31-7575
- 第27回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会
開催日：2月27日(土)～28日(日)
会場：福岡国際会議場
大会長：松浦正朗
問い合わせ先：福岡科大学口腔インプラント分野
(城戸寛史気付)
TEL：092-801-0411
- 第51回日本歯科放射線学会
開催日：4月23日(金)～24日(土), 25日(日)
会場：鶴見大学記念館
大会長：小林 馨(カオル)
問い合わせ先：鶴見大学歯科放射線
TEL：045-581-1001
- 第34回日本口蓋裂学会
開催日：5月27日(木)～28日(金)
会場：北トピア(王子)
大会長：内山健志
問い合わせ先：東京歯科大学口腔外科
TEL：043-279-2222
- 第23回日本口腔診断学会
開催日：5月29日(土)～30日(日)
会場：日大松戸歯学部
大会長：伊藤孝訓(タカノリ)
TEL：098-851-1234
- 第20回日本顎変形症学会
開催日：6月15日(火)～16日(水)
会場：札幌プリンスホテル国際館パミール

Newsletter No. 10

Maxillofacial Prosthetics

大会長：井上農夫男

問い合わせ先：北海道大学大学院歯学研究科口腔
健康科学講座高齢者歯科学教室

TEL：011-706-4582

●第 64 回日本口腔科学会学術集会

開催日：6 月 24 日（木）～ 25 日（金）

会 場：札幌プリンスホテル

大会長：戸塚靖則

問い合わせ先：北海道大学大学院歯口腔病態学
講座口腔顎顔面外科学

TEL：011-706-4283

●第 30 回日本歯科薬物療法学会総会・学術大会

開催日：7 月 2 日（金）～ 7 月 4 日（日）

会 場：日本歯科大学九段ホール

大会長：佐藤田鶴子

問い合わせ先：日本歯科大学生命歯学部口腔外科
TEL：03-3261-8311

●第 40 回日本口腔インプラント学会・学術大会

開催日：9 月 17（金）～ 9 月 19 日（日）

会 場：札幌コンベンションセンター

大会長：松沢耕介

問い合わせ先：北海道医療大学口腔機能修復再建学系
クラウンブリッジ・インプラント補綴学

TEL：0133-23-1059

●第 119 回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：6 月 11 日（金）～ 13 日（日）

会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

大会長：志賀 博（日歯大）

問い合わせ先：日本歯科大学生命歯学部歯科補綴第 I
TEL：03-5940-5451

●第 21 回日本老年歯科医学会学術大会

開催日：6 月 25 日（金）、26 日（土）

会 場：朱鷺メッセ（新潟市）

大会長：野村修一（新潟大）

問い合わせ先：財団法人口腔保健協会コンベンション
事業部

TEL：03-3947-8761

●第 22 回日本嚥下障害臨床研究会

開催日：7 月 10 日（土）～ 11 日（日）

会 場：AOSSA（福井県福井市手寄 1 丁目 4）

大会長：津田豪太（福井県済生会病院耳鼻咽喉科
頸部外科）

コンテンツ

第 27 回学術大会案内	1
第 26 回学術大会報告	2
第 14 回教育研修会を聴講して	3
関連学会報告ならびに予告	5
関連学会の案内	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委 員 隅田由香、熊倉勇美、小山重人、
古賀千尋、山口能正

幹 事 城下尚子

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘 1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座